

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積	出荷見込み		7月のピーク(%)			主産地
				期間	ha	出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	(前年比)	千本	千本				
アルストロメリア	北海道	周年	オルガ レモン	周年	905	4430		30%	30%	40%	新篠津村 JA新しのつ
			ホワイトニー イレーネ	(5・10月)	105%	92%					
スターチス	北海道	促成～	(シヌアータ) ネオアラビアン	5～11月	3824.14	19309		60%	20%	20%	深川市 北空知広域連
			フレンチバイオレット ピンクキッス ネオブルー	(7～9月)	98%	97%					
		促成～	(シネンシス) キノブランⅡ	5～11月	2078	8950		70%	20%	10%	深川市 北空知広域連
			キノブラン キノラパン チャームブルー	(7～9月)	0.94	94%					
バラ	山梨	周年 冬期休眠	ローテロー ザ、サムライ 等	周年	2.5	130	110	35	35	30	笛吹市 御坂町
			()	(100%)	(46%)	(42%)					

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	山形	出荷開始時期は平年並み。7月出し作型の生育は、順調に生育し発らいしている。園地によってフザリウム(土壌病菌)の発生が見られ次作に向け土壌消毒を計画している。	<p>現状</p> <p>高冷地、中間地、西南暖地との入れ替え時期となり、数量は増加。中間地の千葉、茨城がやや遅れており、極端な増加には至っていないが20日以降数量増えてくる。しかし大きな需要もなく、販売面ではやや厳しい販売が続く結果となった。極端な増加が無かったため例年並みの販売が続いた。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 数量が前半から増え出し上旬ピークとなる。気温も上がり品質面も心配されるが夏の花として単価は安くともブルー系中心に売れてくる見込み。</p>
	北海道	一時期、高温時期が続いたため、出荷が早まると思っていたが、5月下旬の低温で例年通りの出荷になる見込み。	<p>FAJ 秋田・山形・福島中心の入荷。新盆中心に前半はやや動きがあるものの全体では葬儀関係中心。</p> <p>東日本板橋花き 6月下旬頃には西南暖地の2番花も落ち着き高冷地も本格的に出荷が出てくる。</p>
	福島	生育は順調、やや前進傾向。7月上旬までの増量も中旬には一旦落ち着き、下旬より季咲開始となる見込み。	<p>世田谷花き 山形・宮城などからの出荷も始まり入荷量もピークを迎える。</p> <p>第一花き</p>
	群馬	県内北部が出荷の中心となる。生育は前進傾向で、6月下旬から出荷が始まっており、平年よりも出荷量がまとまる時期が早まる見込み。目立った病害虫等は特に見られず生育は順調。	
	千葉	<p>①天候不順の影響で生育に遅れが見られる。</p> <p>②ポヤージュ系を中心に八重品種が中心。</p> <p>③JA安房南房地区は6月14日に出荷査定会(目揃い会)を開催し選別基準を確認した。</p> <p>①生育はかなり順調。病害虫の影響は特にない。二番花の切り始めで、これから切る数が多くなる。</p> <p>②30品種弱。サカタ(レイナ、ポヤージュシリーズなど)や住化(セレブシリーズなど)の品種がある。</p>	
デルフィニウム	北海道	スプレー系はたくさんあります。(特に水色)八重系は少なめですが、これから出てきます。	<p>現状</p> <p>上・中旬は暖地産の数量が多く厳しい相場形成となった。高冷地産に関しては、若干の遅れはあったが下旬頃から数量も増加していく。</p> <p>見通し</p>
			<p>大田花き 暖地産出荷終盤となり、高冷地主体の販売となる。シネシス系に関しては、やや遅れ気味の生育状況。大きな需要はないが、ブライダル需要で多少引き合いが見込まれる。</p> <p>FAJ 引き続き北海道中心の入荷。安定した出荷が見込まれる。</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き 各階級出揃う。業務中心に薄い色目が強い。</p> <p>第一花き</p>

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
アルストロメリア	北海道	5月の高温により生育が前倒しになったが、6月の低温・雨天により出荷量は減少した。今後天候が回復すれば、7月は例年よりも出荷数量はやや増加する見込み。一部圃場に病害虫の発生有。	<p>現状 愛知、長野、北海道、山形が主産地となるが、各産地減少傾向となった。全国的に供給が減少したことから、相場は上げ基調となり、高値で推移した。</p> <p>見通し</p>
			<p>大田花き 入荷数量は少量となるが、下旬より北海道が増加する。小売りの需要は薄いものの、業務需要の動きに支えられ、安定した取引となる。 350,000本 @70</p> <p>FAJ 出荷産地は引き続き長野・山形。白は葬儀中心に安定した販売続く。</p> <p>東日本板橋花き 青森・北海道中心の入荷。業務需要中心の動き。</p> <p>世田谷花き 厚くなると花持ちの観点から厳しい流れ。</p> <p>第一花き</p>
スターチス	北海道	作付品種の変更等で主要品種は減少。今後、7月新盆に向けて、出荷量は増える見込み。 融雪は早かったが、低温・曇天続きで越冬の生育は遅れている。6/20頃より白系品種中心に出荷量は増える見込み。	<p>現状 シヌアータは高冷地、暖地との入れ替え時期となり、やや品薄な出荷動向が続いた。しかしながら大きな需要もない時期となり、販売面ではやや厳しい販売が続く結果となった。ハイブリット系は山形産中心に出荷増加となったが、例年と比べると天候の影響で緩やかな増加だった為、昨年よりは安定した単価での販売が続いた。</p> <p>見通し</p>
			<p>大田花き シネンシス、ハイブリットともに7月盆に向けて各産地やや増加傾向となる。需要面では盆需要が中心となり、それ以外の大きな需要はないため、通常の加工、業務需要が中心の販売となる。</p> <p>FAJ 引き続き北海道・秋田など高冷地中心の入荷。新盆に向けて需要徐々に高まる予定。</p> <p>東日本板橋花き 7月の新盆に向け遅れ気味。シヌアータ@60~100 HB@30~150</p> <p>世田谷花き 北海道・長野中心の入荷。上位等級中心に潤沢。</p> <p>第一花き</p>
バラ	山梨	改植の関係で出荷量が減少 生育自体は順調で昨年とほぼ同じ。	<p>現状 西南暖地、高冷地ともに切り花サイクルが重なり、需要に対し入荷過多になっている。プライダルも非常に少なく、販売に苦戦。 輸入品も原価割れをする価格での取引が続いている。</p> <p>見通し</p>
			<p>大田花き 西南暖地の下位等級が少なくなり入荷量は落ち着き、高冷地産は上位等級中心の荷姿となる見込み。輸入品は6月の現状と変わらない単価で推移する見込み。</p> <p>FAJ 宮城・山形など東北高冷地中心の入荷。目立った需要なく落ち着いた状況続く。</p> <p>東日本板橋花き 山形県産を主体とした東北物中心の入荷となる。気温上昇につれ需要は鈍るが専門店、量販店等の販売強化を期待したい。</p> <p>世田谷花き 入荷は昨年並みの見込み。後半の連休に期待。</p> <p>第一花き</p>